

CONTENTS

- P1 わが館のイチ押し
楽しみながら学べる柵原鉱山資料館
- P2 館長随想『博物館と史跡保存』
(津山洋学資料館 館長 小島 徹)
- P3 令和6年度第1回研修会「文化財と相続」
参加者感想:高梁市成羽美術館 学芸員 吉田 遥
- P4~P5 ... 特集「周年を迎える加盟館」
①新見美術館のこと
②「推し」と迎えた林原美術館の60周年
- P6~P7 ... 加盟館からの便り
(川崎医科大学 現代医学教育博物館)
- P8 気になる情報コーナー
(「考古資料は語る!—美作津山の古墳文化—」を開催して)

岡山の
博物館

岡山県博物館協議会会報



柵原鉱山資料館

美咲町役場 産業観光課 赤木 信哉

「楽しみながら学べる柵原鉱山資料館」

旧片上鉄道の吉ヶ原駅と操車場があった約18,400㎡の広大な敷地内に「柵原ふれあい鉱山公園」は作られており、その園内に「柵原鉱山資料館」はある。柵原ふれあい鉱山公園では吉ヶ原駅舎が現存し、運送用貨車や客車車両11両が保存されている。柵原鉱山資料館では東洋一の硫化鉄鉱山として栄えた柵原鉱山の歴史と文化を楽しむことができる。

館内には、昭和30年頃の鉱山の様子や鉱山町の暮らしぶりを再現し、昔なつかしい鉱山町を実感できる「鉱山町のにぎわいコーナー」。立体絵日記で見る坑夫一家の暮らし「鉱山町のくらしコーナー」。柵原の歴史や片上鉄道の歴史が一目でわかる「柵原の歴史コーナー」。実物大の坑道が体験できる「採掘最前線コーナー」。貴重な映像で鉱山町の歴史がわかる「映像コーナー」。採掘から輸送までが一目でわかる「鉱山町展示コーナー」。鉱山の中が可視化されている「立体鉱山コーナー」などもあり親子で楽しめます。

鉱山町のにぎわいコーナー

日用品は何でもそろそろ供給所をはじめ、自転車店、バー、ホルモン焼き屋、そして鉱山で働く家族が住む鉱山住宅。実物大のセットに、当時のままの品物や道具をそろえて、本物そっくりの町の様子を再現している。



懐かしい鉱山町のにぎわいを体験できる

鉱山町のくらしコーナー

鉱山で働く従業員の家族の一日が、模型を使ってわかりやすく展示されている。家族で朝ご飯を食べていたり、学校での楽しい給食、夜は家族でテレビを見たりと、狭いけれど楽しそうな暮らしぶりをのぞくことができる。



立体絵日記で坑夫一家の暮らしを見ることができる

柵原の歴史コーナー

江戸時代のはじめに発見された鉱山のおかげで、柵原は全国的

に有名になった。仕事を求めて全国各地から人が集まり、当時の活気はものすごかったという。このコーナーではそうした柵原の歴史や鉱石運搬に活躍した今はなき片上鉄道のことを学ぶことができる。

採掘最前線コーナー

エレベーターを降りるとそこはもうまるで地下400mの坑道の中。岩にダイナマイトを入れる孔をあけたり、鉱石をすくったり、集めたり、見たことがない珍しい採掘作業を見ることができる。



柵原の歴史や片上鉄道の歴史が一目でわかる

映像コーナー

昔の舞台のようなスクリーンで、鉱山や町の貴重なフィルムを観ることができ、鉱山町の歴史を映像を通して体験できる。



実物大の坑道が体験できる

鉱山町展示コーナー

地下深くに集められた鉱石を運ぶための本物の鉱車をはじめ、削岩機など鉱山で使う道具などをパネルとともに展示しており、鉱石のできかたなども学ぶことができる。



貴重な映像で鉱山町の歴史を観ることができる

立体鉱山コーナー

坑道と一口に言っても、人が上り下りしたり、鉱石を地上に上げたり、採掘したり。いろいろな目的の坑道が、まるでアリの巣のように縦横無尽に走っている姿が一目瞭然。



採掘から輸送までが一目でわかる



鉱山の中を断面で見ることができる

「考古資料は語る！—美作津山の古墳文化—」を開催して

津山郷土博物館
館長 小郷 利幸

令和6年度の秋の特別展で「考古資料は語る！—美作津山の古墳文化—」を開催しました。当館で考古遺物の本格的な展示は、平成25年度の「土の棺に眠る—美作の陶棺—」以来になります。

今回のコンセプトは、美作国が備前国からわかれてできた理由を、前時代の古墳文化から探ろうというものです。なお、開催するにあたり当初予定していなかった出来事がありました。それは、津山市の田邑丸山2号墳からかつて出土した三角縁神獣鏡が、60数年ぶりにオークションにかけられ、落札された方から借りることができたことです。落札者が考古関係の同志社女子大学特任教授の山田邦和さんだったので、快く貸していただきました。津山で確認できる唯一の三角縁神獣鏡で、さらに60数年ぶりの発見だったこともあり、いきなり今回展示の目玉にもなりました。

展示では津山の古墳調査の研究史から、これまでの発掘調査で出土した考古資料を概ね時代順に並べました。

これら考古資料を一堂に展示することは中々ないので、研究者の方々には好評のようでしたが、一般の方々にはやや難しかったかもしれません。そのため、ギャラリートークを適宜開催し、あわせて、講演会や古墳見学会で展示内容の解説につとめました。

津山の古墳時代を通してみると、前期では三角縁神獣鏡や豎矧板革綴短甲(日本で3例)、中期から後期では畿内に由来のある埴輪や朝鮮半島由来の鍛冶具、後期後半には陶棺が普及します。このように、時代が新しくなるにつれ、独特の風土が徐々に養われていき、結果的にこれが分国された要因の一つになったのではないかと考えます。

津山郷土博物館には、約10万点を越える収蔵資料があります。なかなか総てを紹介することはできませんが、これら郷土の歴史資料などを活用した特別展、企画展や博物館だよりなどをおして、今後も紹介できればと考えています。



ギャラリートーク風景



チラシ

岡山県博物館協議会会報

岡山の博物館

No.67 令和7年3月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 守安 収

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648